

今日の主人公

「お茶」



(株)NTT 東日本 - 北海道 北海道東支店
釧路営業支店 支店長

池田いずみ君

社会人になり、職場の先輩の師匠を紹介していただき、習い始めました。今も師事する30年来の師匠です。

お茶は女性中心と思われがちですが、昔は、戦国時代の武士たちが四畳半や六畳の部屋でお茶事を行っていました。そこでは、接待や密会が行われていたことでしょう。

お茶事とは、懐石、濃茶、薄茶でおもてなしをするお茶会のことです。

お茶事では、お酒も出ます。懐石の席中の「千鳥の盃」です。「千鳥の盃」では、亭主（ホスト）が客（ゲスト）にお酒をついで廻ります。

お客様が三人の場合、一人目に注ぎ、亭主が返杯を受けます。二人目に注ぎ、また亭主が返杯を受けます。三人目に注ぎ、またまた亭主が返杯を受けます。

また、茶道とは、一定の作法にのっとりお茶を点てそれを一定の作法で飲むものと思われがちですがお菓子をたべてお茶を飲むだけでなく、美術、工芸、詩歌、書画、生花、茶室建築や造園、懐石料理や菓子などに至る幅広い分野にまたがり、様々なことを楽しむことができます。

三十年近くお稽古に通っていますが、新しい発見がまだまだあります。

取材感想

札幌で始めたお茶は三十年のキャリアで家元は裏千家だそうです。取材で会社訪問させて頂きでお茶を点てていただきました。

最初に濃茶と主菓子が出され次に薄茶と有平糖が出てきまして大変美味頂きました。驚いたのは出されたお茶碗がご自分で焼いた物で陶芸の腕前も素晴らしく二度ビックリです。短い時間でしたがお茶の作法も教えて頂きました

そんな池田いずみさん取材しました。ありがとうございました。

